

彫刻のある通り

高坂駅西口から西へ、約1キロメートル続く野外彫刻ギャラリー。

ここには、1982（昭和57）年、当市で彫刻展と講演を開催したことが縁となった、彫刻家 高田博厚のブロンズ像32体が設置されています。それぞれの台座には、作者の短文が書かれたプレートが添えられ、作品をより一層引き立たせています。1986（昭和61）年、関係する多くの皆さんの協力を得て、高坂駅西口土地画整理事業により市街地環境が整備されたことから、まちづくりの一つのシンボルとして設置されました。

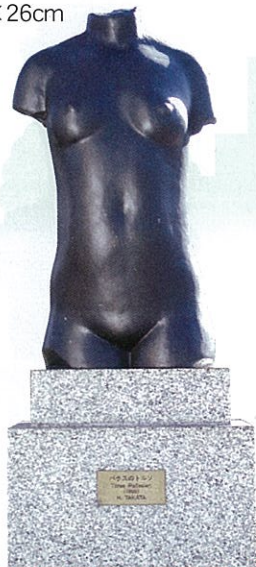
思想を彫刻に表した独特の作風をもつ高田博厚の作品から、皆さんも様々なことを感じてください。

「ブロンズ」
 ここにある作品は、すべてブロンズ像です。ブロンズは、約90%の銅と10%のすずの合金で、鉛や亜鉛などの金属も少量含まれます。硬く耐久性があり、熱しても冷めても加工することができるので、鑄造に適しています。

32 水浴 1961年
 86×20×18cm
 (高さ×幅×奥行き)



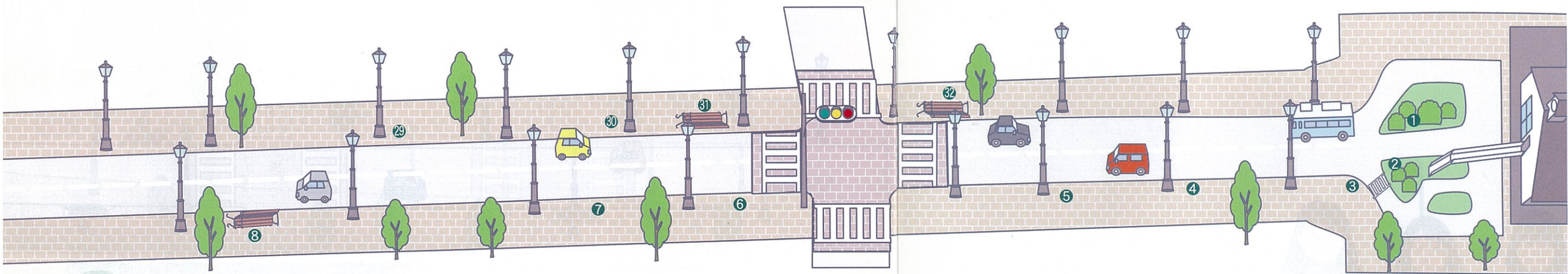
31 パラスのトルソ 1969年
 69×31×26cm



30 マハトマ・ガンジー 1966年
 101×58×50cm



29 横たわる女 1969年
 47×90×31cm



1 遠望 1981年
 170×60×42cm



2 大地 1978年
 69×70×53cm



3 水浴 1969年
 130×35×31cm



4 アラン 1932年
 38×26×24cm



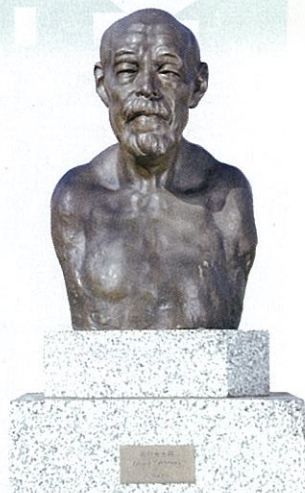
5 海 1962年
 68×28×44cm



6 女のトルソ 1965年
 67×22×21cm



7 高村光太郎 1959年
 55×35×33cm



8 カテドラル 1937年
 54×30×25cm



24 女のトルソ 1973年

85×34×28cm



25 礼拝

1982年
185×60×
50cm



密度のある街路

つばし あきら
馬橋 旭さん

(東松山美術協会会長)



ここは「彫刻で街路を飾る」なんてシャレたところではありません。ひとりの芸術家が彼の作品と文章で彫刻の美と、交流した人々について報告している場所です。台座のパネルにある作者の言葉のとおり「作品の前に立ち止まる人のみ」それを聞くことができます。

内側からはちきれんばかりに発動する生命そのもの、それを実をさせる緊迫した構造―「カテドラル」「水浴」「海」。頭部から足のつま先まで、緊張感をもって美しく起伏してゆく「憩い」「横たわる女」。

不思議な手のフォルムと広がりゆく腰部を持つ「礼拝」。この広がりゆく感覚はのびやかにそびえ立つ「トルソ」の腰部においても観るものを夢見ごちにさせるのです。後期の「トルソ」はエジプト彫刻のように普遍です。

胸骨をあらわにした光太郎・元吉、透明な表情の賢治、抽象形態のコスチュームに包まれたガンジー、巨大な塊、志功・稲造、堂々のタゴールなど肖像群にも興味はつきません。

26 高橋元吉 1970年

51×32×26cm



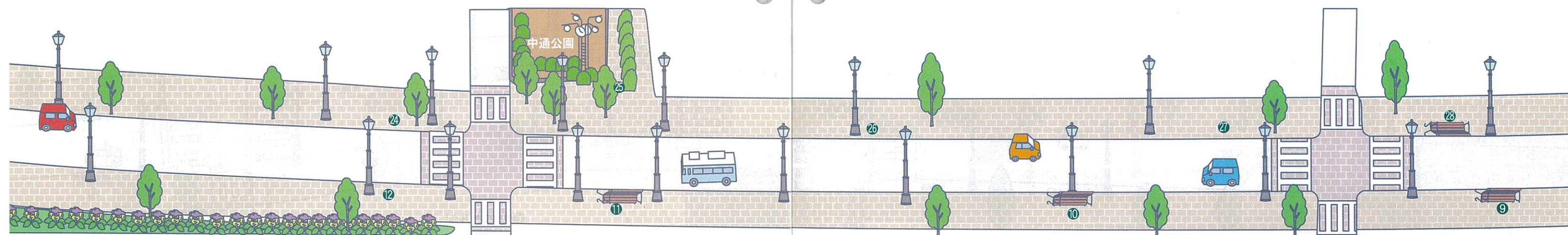
27 在 No.1 1980年

60×45×35cm



28 女のトルソ

1965年
62×30×25cm

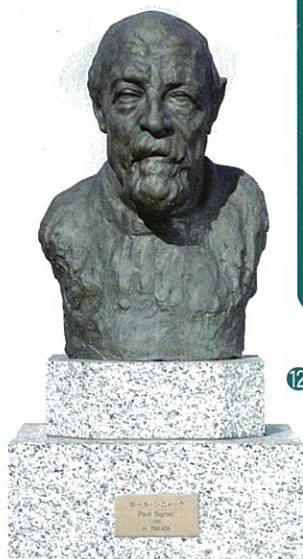


「トルソとは」

トルソ(Torso)とは、胴体を意味するイタリア語から出た彫刻用語で、首や腕、脚などを欠いた胴体だけの彫刻のことをいいます。人の体の美しさを象徴しています。

12 ポール・シニャック

1961年
51×28×30cm



11 在 No.2 1981年

69×60×40cm



10 女の大トルソ 1964年

75×40×32cm



9 憩い 1961年

48×65×22cm



高田博厚さんとの

出会い

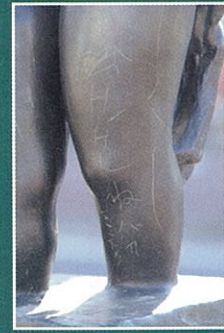
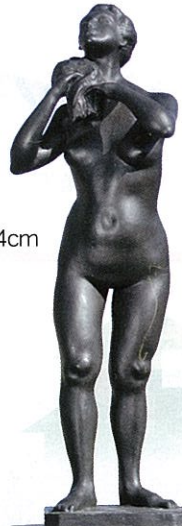
たくし ひろし
田口 弘さん
(元市教育長)



もう半世紀になります。すでにノーベル賞作家で、「ヨーロッパの良心」と崇められたロマン・ロランは、高田博厚について「タカタは精神を形づくるほんとの芸術家です。現代の稀な彫刻家です」と評価しました。スイスのロランの所にガンジーが滞在した時、ロランはバリの高田(30歳)に交通費までおくり、ガンジーの彫刻を創るようだったらと心配りをしてくれたといいます。それ以来手がけた「ガンジー彫像」の一つが現在高坂にも並んでいます。

いつも問われるのは、現代日本の最高の彫刻家と評価される作品群がなぜ東松山になのかということ。そのもとは、昭和12年から旧制松山中学校に、高田氏と親交のあった柳田知常先生が5年間おられ、私と師弟のかかわりをもつようになったことです。昭和49年高田氏に会い、56年市中央公民館で高田彫刻展・講演会を開催しました。その後も数度にわたり鎌倉アトリエを訪問するまでになったからです。

19 裸婦立像
1963年
77×24×24cm



「落書きやめて」
ある彫刻に落書きが
してあり、これを見
つけたときはとても
悲しくなりました。
皆さんに愛されてい
る作品を傷つけるこ
とは、絶対にあつて
はならないことです。

18 新渡戸稲造 1976年
71×56×40cm



20 宮沢賢治 1971年
43×29×32cm



21 空 1978年
128×50×42cm

22 憩う 1976年
59×80×44cm



23 男のトルソ（ヘラクレス）
1973年 68×50×47cm



17 空のトルソ 1978年
110×29×32cm



16 棟方志功 1979年
77×58×37cm



15 女のトルソ
1973年
131×34×28cm



14 タゴール 1979年
90×70×55cm



13 女のトルソ 1963年
70×31×26cm



「高田博厚略年表」

- 1900 (明治33) 年 現在の石川県七尾市に生まれる。
- 1925 (大正14) 年 武者小路実篤主唱の大調和展に初めて作品5点を発表。
- 1931 (昭和6) 年 渡仏する。ポール・シニャックに促され、アンデパンダン展特別出品。スイスのロマン・ロランに招かれ、彼の家に一週間滞在していたマハトマ・ガンジーを素描。
- 1938 (昭和13) 年 パリ日本美術家協会を設立し、ベルネーム・ジュヌ画廊で第1回在仏日本人美術家協会展を開催。
- 1957 (昭和32) 年 新制作協会会員、日本美術家連盟委員、東京芸術大学講師などをつとめるが、徐々に引退し制作に専念。
- 1959 (昭和34) 年 高村光太郎賞選考委員となる。
- 1962 (昭和37) 年 日本各地で高田博厚彫刻展を開催。
- 1966 (昭和41) 年 鎌倉市に住居とアトリエを建てる。
- 1980 (昭和55) 年 生誕80年記念・高田博厚展を開催。
- 1987 (昭和62) 年 鎌倉市で逝去。(87歳)